

業績たたえ赤水像建立へ

JR高萩駅前

江戸時代に高萩市赤浜で生まれ、地理学者として活躍した長久保赤水(1717~1801年)の生誕300年に先立ち、同市高萩のJR高萩駅前に銅像を建立する計画が進められている。「銅像建立実行委員会」(皆川敏夫委員長)が来月1日発足し、今秋の銅像公開を目指す。皆川委員長は「赤水の業績を広く知らせるきっかけにしたい」と話している。

赤水は農民出身ながら水戸藩に学者として仕え、1779年には緯線と方角線を使った初めての日本地図「改正日本輿地路程全図」を作成。それまで一般に普及していなかった日本地図を、世間に広め



今秋、JR高萩駅前に建立予定の長久保赤水銅像の原型(皆川敏夫さん提供)

生誕300年を前に 日本地図の陶板も

る功績を残した。

実行委には、赤水の子孫や「長久保赤水顕彰会」の会員、歴史愛好家ら約20人が参加。発起人の一人、長久保源蔵さんは「郷土の偉人である赤水の銅像がないのは残念」と、10年以上前から銅像建立を夢見ていたという。

銅像の完成イメージは全高2尺55寸で、礼服装姿の赤水を台座上に置き、そばには日本地図を陶板化した「赤水図」などを設置する予定だ。制作するのは日本芸術院会員の彫刻家、能島征二氏で、総事業費は約1千万円を見込む。

実行委は銅像建立へ向けて事業費を募り、さらに記念誌編さんのほか、赤水のテーマ曲制作にも取り組む。テーマ曲は市民から歌詞を募集する。銅像は同駅西口ロータリー内に設置する予定で、除幕式や関連イベントなどを検討している。(小野寺晋平)